

研修会記録

## 「基礎ゼミナール」の意義

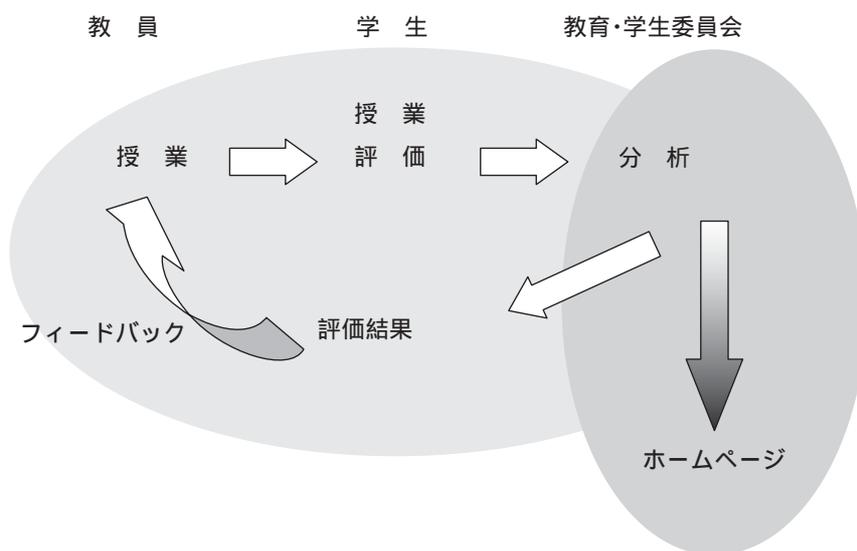
土持ゲーリー法<sup>\*</sup>

平成17年度より、本格的なFDワークショップが開催されました。詳細なFDワークショップの日程表は、最後に添付されています。また、実際の活動状況については、『21世紀教育センターニュース』第7号(平成17年9月)に記載されていますので、これを参照にしてください。

ここでは、なぜ、FDワークショップが大学の授業改善に必要なのか。そして、なぜ、「基礎ゼミナール」としたのかについて簡単に述べることにします。

ファカルティ・ディベロップメント(FD)は、教員が授業内容や方法を改善し、向上させるための組織的な取組の「総称」であって、そのなかには、新任教員のための研修会、教員相互の授業参観なども含まれます。文部科学省(平成17年3月)の調査によれば、「学生による授業評価の実施状況」している国立大学は、平成15年度までに約99パーセントという高い達成率となっています。しかし、授業評価の結果を改革に反映するための組織的な取り組みが行われていると答えた大学は、約54パーセントに過ぎませんでした。

弘前大学の場合は、以下のような図式になります。



「学生による授業評価」が、授業改善にフィードバックされてはじめて効果的な大学改革に繋がります。そのためには、教員によるFDワークショップは不可欠であるといえますが、FD活動を実施している大学は、年々増加しているものの、平成15年度現在、約69パーセントしかありません。

本学のFDワークショップは、副学長(教育・学生担当理事)、センター長を含め、学外で1泊2日の集中的な研修を行うというもので、全3回のグループ作業を通して、授業シラバスを作成するものでした。その過程で、学習者にとっての効果的な授業シラバスとは何か、公平な成績評価とは何か、学期途中のフィードバックがどのように授業改善に役立つのかなどについて相互に考えました。

<sup>\*</sup> 弘前大学21世紀教育センター高等教育研究開発室

Faculty Development Office, Center for 21<sup>st</sup> Century Education, Hirosaki University

なぜ、「基礎ゼミナール」のためのFDワークショップとしたかについては、これが導入科目であって、すべての新入生の必修科目となっているからです。高大連携の重要性が指摘されるなかで、導入科目の役割は益々高まっています。高校から大学への移行は、新入生にとって戸惑いのあるものですが、なかでも「ゼミ」は大学特有のもので、しかも、大学教育の「要」であると東京大学元総長の有馬朗人氏は述べています。授業にとって「導入」が重要であるのと同じように、「基礎ゼミナール」は大学教育の「導入」であって、4年間の成否を決定づける「鍵」であると言っても過言ではありません。

本学の「基礎ゼミナール」は、各学部で開講され、その数は120と多くなっています。しかし、他の「21世紀教育」科目が、個別の授業シラバスを掲載しているのに対して、「基礎ゼミナール」は、到達目標などが簡潔に記載されているに過ぎません。そこで、FDワークショップでは、「基礎ゼミナールの共通理解を深める」ことを目的とし、各学部から「基礎ゼミナール」担当教員3名に参加してもらうことにしました。はじめての試みでしたが、教員間の相互理解がより深まり、シラバスが授業を進めるうえで、学生との重要な「契約」となり、コミュニケーションの役割を果たしていることを理解することができました。

また、個人的な感想や意見を述べるなかで、大学としての教育評価システムの整備についての意見が出され、そこでアメリカおよびカナダの高等教育研究機関で実施されているティーチング・ポートフォリオ(教員の教育業績ファイル)を紹介したところ、大きな反響があり、弘前大学として「ティーチング・ポートフォリオの積極的導入」に取り組むこととし、文科省の海外先進教育実践支援プログラムに申請して、本格的な取り組みをはじめたという経緯があります。FD活動の最終的な目標は、授業改善に繋がるような個々の教員のティーチング・ポートフォリオの作成にあり、そのためのコンサルティングが重要であるとの認識から、高等教育研究開発室では、新たに教員の授業改善のためのコンサルティングをはじめることになりました。このように、第2回弘前大学FDワークショップによる効果は甚大であったと考えています。

言うまでもなく、FDワークショップとは教員の組織的(ファカルティ)な取り組みであって、「継続」するところに意義があります。平成18年度も引き続き、「基礎ゼミナール」に関するFDワークショップを行います。今回は、中央教育審議会の答申『我が国の高等教育の将来』(平成17年1月)で取り上げた「単位の実質化」を副題として、互いに議論を深めることにしています。教員の積極的な参加が望まれます。

### 平成17年度 21世紀教育FDワークショップ日程表

会場：ホテルちとせ屋(黒石市)

月 日 時 間	第1日 平成17年6月11日(土)
8:30	弘前大学創立50周年記念会館集合 受 付
8:45	弘前大学創立50周年記念会館発 ホテルちとせ屋到着(9:30) (貸切バス利用) 研修開始: オリエンテーション
9:30	ホテルちとせ屋到着 玄関前で記念写真
9:45	挨拶「弘前大学における教育の意義について」 副学長 大関 邦夫
10:00	ミニレクチャー「21世紀教育 - その生まれと育ち - 」 センター長 矢島 忠夫
10:15	ミニレクチャー「『基礎ゼミナール』の現状」 副センター長 大高 明史

10:50	ミニレクチャー「初年次教育を中心に」副センター長 土持 法一
11:25	休 憩(10分)
11:35	オリエンテーション「FDとワークショップ」副センター長 土持 法一
12:00	昼 食(60分)
12:00	昼 食(60分)
13:00	ミニレクチャー「学習目標」-「カリキュラムと単位制」
13:30	グループ作業 の課題説明・グループ学習室への移動(10分)
13:40	グループ作業 「授業の設計1:授業の副題・目標の設定」(60分)
14:40	各グループ発表10分・討論5分(45分)司会進行:榎FD委員
15:30	休 憩(20分)
15:50	ミニレクチャー「学習方略」-「授業設計(シラパス)」(30分)
16:20	グループ作業 の課題説明・グループ学習室への移動(10分)
16:30	グループ作業 「授業の設計2:(目標の手直しと)・学習方略」(60分)
17:30	各グループ発表10分・討論5分(45分)司会進行:佐野FD委員
18:20	風呂・夕食(100分)
20:00	意見交換「実際に『基礎ゼミナール』を担当してみて」(50分) 司会進行:内海FD委員
21:00	懇親会
	第2日 平成17年6月12日(日)
7:30	朝 食 散策(新緑・百人足湯・津軽伝承工芸館等)
9:30	ミニレクチャー「評価」-「評価とフィードバック」(30分)
10:00	グループ作業 の課題説明・グループ学習室への移動(10分)
10:10	グループ作業 「授業の設計3:(学習方略の見直しと)評価」(60分)
11:10	各グループ発表10分・討論5分(45分)司会進行:内海FD委員
11:55	休 憩(10分)
12:05	参加者の個人的感想や意見(50分)司会進行:大高FD委員長,土持委員
12:45	昼 食(30分)
13:15	ホテルちとせ屋発(貸切バス利用)
13:55	弘前大学創立50周年記念会館着

(注:『21世紀教育活動・評価報告書』(平成17年度)からの転載。なお、標題を「基礎ゼミナールの意義」と改めました)